

文の組み立て

ポイント

文の組み立てには、次の三種の種類があります。

・**単文**……主語と述語の関係が一組みだけの文。

【例】先生が 修学旅行の 持ち物を 説明する。
 【主語】先生が 【述語】説明する。

・**重文**……主語と述語の関係が二組み以上あり、それらが対等に並んでいる文。

【例】弟は 小学一年生で、 兄は 中学一年生だ。
 【主語】弟は 【述語】小学一年生で、 【主語】兄は 【述語】中学一年生だ。

・**複文**……主語と述語の関係が二組み以上あり、それらが意味のうえで深いつながりをもっている文。

【例】雨が やんだので、 試合は 午後から 行われた。
 【主語】雨が 【述語】やんだので、 【主語】試合は 【述語】午後から 行われた。

【例】私は、 弟が 走る 姿を カメラに 収めた。
 【主語】私は、 【主語】弟が 【述語】走る 【主語】姿を 【述語】カメラに 収めた。

言葉のきまり

名前

学習日

月

日

得点

100点

1 次の文の主語の右側に——線を引き、述語を□で囲みなさい。主語と述語が複数ある場合は、すべて答えなさい。
 (完答で各7点)

【例】母が兄に帰宅の時間をたずねる。

1 私の姉の将来の夢は幼いころからずっと同じだ。

2 かれこそ私たちのチームの代表にふさわしい。

3 父は母と早朝からゴルフに出かけ、ぼくは友人と遊ぶ。

4 次から次へと落ちる、君の目から大つぶのなみだが。

5 日曜日の午後、やわらかな自然の光が、私の部屋をやさしく包む。

↑ ちびむすドリルのポイント

Z会 × ちびむすドリル

考える楽しさを体験しよう!



くわしくはこちら!

Z会の本



かっこいい小学生になろう

2 次の①〜③の文は複文です。それぞれの主語と述語の組み合わせを記号で書きなさい。(主語・述語が両方できて各5点)

例

ア 私は イ 母が ウ 作った エ スープを オ 飲んだ。
(主語) ア (述語) オ / (主語) イ (述語) ウ

1 来年の イ 春、 ウ 私たちは エ 祖母と オ いっしょに、
カ 空気が キ おいしい ク 土地へ ケ 引っこします。

主語 () () () ()
述語 () () () ()

2 ア 小さな イ 妹が ウ 種を エ まいた オ アサガオも
カ ついに キ 今日 ク きれいに ケ さいた。

主語 () () () ()
述語 () () () ()

3 ア ぼくが イ 学級委員に ウ すいせんした エ 山田君は、
オ みんなも カ 支持する キ クラスの ク 人気者だ。

主語 () () () ()
述語 () () () ()

3 次の文の組み立ての種類をあとのア〜ウの中から一つずつ選び、() に記号を書きなさい。(各5点)

1 荷物が全部入るような大きなばんがない。

2 その小説の結末に、だれもおどろいた。

3 友人が詞を書き、ぼくが曲を作る。

ア 単文 イ 重文 ウ 複文

4 次の文の組み立てと同じ種類のものをもとのア〜ウの中から一つずつ選び、() に記号を書きなさい。(各5点)

1 どうやらその土地の風はとても強いようだ。

2 鳥がゆうゆうと空を飛び、花が一面にさく。

3 弟は、ぼくが話す深海魚の生態に関心を示した。

ア これは、私の父が小学六年生の時に書いた作文だ。

イ 美しいピアノの音色が、放課後の静かな校内にひびく。
ウ 姉は小さいころから英語を学び、私はダンスを学んだ。

Z会 × ちびむすドリル

考える楽しさを体験しよう!



くわしくはこちら!

Z会の本



かっこいい小学生になろう

ポイント

用言（動詞・形容詞・形容動詞）や体言（名詞）などについて、いろいろな意味をつけ加える単語を**助動詞**といいます。

●れる・られる

・受け身……ほかから動作を受ける意味を表す。

《例》先生に注意される。／友人に助けられる。

・可能……「〜できる」という意味を表す。

《例》子どもでも行かれる。（「行ける」は可能動詞）

すぐに覚えられる。

・自発……動作や作用が自然に起こるという意味を表す。

《例》故郷がしのばれる。／かれの行く末が案じられる。

・尊敬……その動作をする人を尊敬する意味を表す。

《例》先生が出席される。／お客様が三時に来られる。

●そうだ

・様態……そういう様子だという意味を表す。

《例》約束の時間には間に合いそうだ。

・伝聞……他人から聞いたという意味を表す。

《例》約束の時間には間に合うそうだ。

言葉のきまり

名前

学習日

月
日

得点

100点

●ようだ

・比喩……何かを似たものにたとえる意味を表す。

《例》そのロボットはまるで人間のようだ。

・推定……不確かだが根拠にもとづいておしはかる意味を表す。

《例》父はあまりねむれなかったようだ。

●う・よう

・推量……確かでないことをおしはかる意味を表す。

《例》大勢の人が集まることだろう。

・意志・勧誘……話し手の意志や相手に誘いかける勧誘の意味を表す。

《例》今日から日記を書こう。（意志）

いっしょに食事をしよう。（勧誘）

●ない・ぬ……「〜ない」という「打ち消し」の意味を表す。

《例》大声で話さない。／人前では泣かぬ。

●た（だ）……すでに過ぎ去った「過去」の意味を表す。

《例》楽しい一日だった。／先月は本を三冊読んだ。

●だ……物事をそうであると言い切る「断定」の意味を表す。

《例》ぼくの兄は大学生だ。

↑ Z会のコンテンツはこちら

Z会 × ちびむすドリル

考える楽しさを体験しよう！



くわしくはこちら！

Z会の本



かっこいい小学生になろう

1 —の「ない」が打ち消しの助動詞であるものを、次のア〜カの中からすべて選び、記号を○で囲みなさい。
(すべてできて10点)

- ア 何もない
- イ くわしくない
- ウ 終わらない
- エ あぶない
- オ 思いつかない
- カ 元気がない

2 次の□の意味で使われている助動詞は、ア・イのどちらですか。記号を○で囲みなさい。
(各5点)

1 推量
ア 私は次からがんばろうと思った。
イ これ以上先に進むのは無理だろう。

2 比喻
ア 池の水面がまるで鏡のようだ。
イ クラスの合唱曲が決まったようだ。

3 次の文を、助動詞「そうだ」を使って、1 様態、2 伝聞の意味を表す文に書き直しなさい。
(各5点)

・明日には完成する。

1

2

4 次の「だ」が断定の助動詞であるものを、ア〜エの中から一つ選び、記号を○で囲みなさい。
(10点)

- ア 昨日買い物に行き、友人へのプレゼントを選んだ。
- イ 私の母は、いつも優しくほがらかだ。
- ウ 雨の日はゆっくり家で過ごす人が多いようだ。
- エ 私が好んで飲むのは、ミルクの入ったココアだ。

5 次の文の「」が助動詞「れる・られる」であれば、その意味をあとのア〜エの中から選び、() に記号を書きなさい。助動詞でなければ() に×を書きなさい。
(各10点)

- 1 アメリカから帰国される恩師をむかえに行く。
- 2 担任の先生に職員室に呼ばれる。
- 3 写真を見ると、小さいころが思い出される。
- 4 これが、この店で一番売れる商品らしい。
- 5 今までがまんしていた思いがあふれる。
- 6 子どもでも答えられるなぞなぞを出題する。

- ア 受け身
- イ 可能
- ウ 自発
- エ 尊敬

Z会 × ちびむすドリル

考える楽しさを体験しよう!



かっこいい小学生になろう

事件らしい事件が起こらない物語はありますが、登場人物が心を全く動かさない物語はありません。場面ごとの、登場人物の気持ちの変化を読み取れるようになります。

● 心情の読み取り方

登場人物の気持ちは、どんなことを手がかりに読み取ってあげばよいのでしょうか。確認していきましょう。

(1) 直接的な表現：「うれしい」「悲しい」などの感情表現、「生まれたての赤ちゃんのような気持ち」といった比喩表現など。

(2) 言葉づかい・口調

例 「ちよっと待てよ」

消え入るような声で言う↓さびしさ・自信のなさなど。

つかみかかりそうな形相で言う↓激しいかり・いかくなど。

(3) 情景描写

例 空はまるでぼくの心をつつしたかのような青空だった。

↓表している気持ちと景色が同じ。

例 空はすみきった青だったが、ぼくにはくもり空にしか見えなかった。↓気持ちとは反対の景色。

● 気持ちの変化の読み取り方

場面ごとの気持ちを比べる

← 変化している場合

変化のきっかけを探す

(1) 出来事や事件

(2) だれかの発言

(3) 登場人物自身の考え方の変化 など

(1)のように明らかな事件があればわかりやすいですね。(2)は、会話のどこかに決定的なだれかの一言がある場合もありますが、会話の流れでなんとなく登場人物の気持ちが変わっていった、という場合もあります。

(3)は、登場人物自身の内面による変化ですから読み取るのが難しいですね。その人物が考えこんでいるような描写や時間の経過がわかるような表現に着目します。「あの時こう思ったんだ」と、あとから回想されるような場合もあります。

情景描写は、景色と感情が同じときと、逆なときがあるから注意してね。





次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「その調子じゃあ、日が暮れちまうよな」
健二はいつものような乱暴な言い方で、美沙のほうに顔を向けて言った。

美沙たちは今、卒業制作として体育館にかざる大きな絵をかいている。有名な画家の絵を細かくモザイクのように分けて、クラスごとに分担し、最後に一枚の絵にするのだ。不器用な美沙は、下書きどおりに色をぬるのに苦労していた。みんなが簡単にできることが、美沙にはむずかしいのだ。

① みんなの視線が集まり、体が火のようだった。健二のほうを見ることもできない。「どうして……」心の中で美沙はつぶやいていた。健二はいつもそうだ。小さな体の久美が、ゴミ出し当番で、大きなゴミぶくろを運びあぐねていたときも、「もたもたするなよ!」と、おこったようにゴミぶくろをかっさらっていった。

そんなことを思って美沙がうつむいてしまったとき、「じゃあさ、青木は色のうすいところだけぬってあげば?」そしたら、はみ出しても目立たないし、こい色をあとからのせることもできるし、いいじゃん」

と健二が言った。クラスのみんなも同意して、みんなでもた色をぬりはじめた。

もしかして……。美沙は② 今までとちがった目で健二をそっと見返してみた。

20

15

10

5

1 ——— ①は、どういうことを表していますか。簡単に書きなさい。

2 ——— ②とは、どういう「目」で見たということですか。「今まで」の内容も明らかにして説明しなさい。

これが
かっこいい
ポイント!

同じ人物の同じ行動でも、見方が変わることで、よってちがって見えることがあるよね。そこから、見ている人の心情の変化が読み取れることがあるよ!



Z会 × ちびむすドリル

考える楽しさを体験しよう!



くわしくはこちら!

Z会の本



かっこいい小学生になろう